

異文化コミュニケーションに現れる 笑いのモダリティ調節について

笹 川 洋 子

An Analysis of the Function of Laughter in Controlling Modality
in Japanese Inter-cultural Conversations

Yoko SASAGAWA

キーワード：笑い 異文化コミュニケーション 相互行為
モダリティの調整

1 はじめに

私たちは発話に表れる相手の心的態度を判断する際に、言語情報だけではなく、声の強弱、音声に現れる感情表現などの副次言語による情報を手がかりにする。こうした言語外の情報は、言語の示すモダリティに大きな影響を与えていると考えられる。本稿では、言語外の情報のうち、対面会話に表れる笑いに注目し、笑いがどのように会話文のモダリティに関わり、特に対人関係に関わる丁寧さのモダリティを調節するかについて観察する。さらに、このような笑いが話者が背景とする言語文化圏によってどう違うかを探るために、異文化コミュニケーションの場面で起こる笑いを観察することにした。¹⁾

2 対他機能としての笑い

橋元（1994）は、機能から「笑い」を考察し、「その効用が自己完結し、相手の存在は副次的なもの（対自機能）と、はじめから他者に対する働きかけが動機となっているもの（対他機能）」に大別している。対他機能を持つ笑いの例として、実際の会話では話題の転換部や会話の終結部で観察される、対話者同士が軽く笑い合う「同調」的笑い等の例があげられよう（水川喜文，1992参照）。笑いが相互作用行為に関わり、対他機能を持つことは、E. Goffman（1961）G. Jefferson et al.（1979, 1985, 1987）、水川（ibid.）西阪仰（1994）、早川治子（2001他）、桐田隆博・遠藤光男（2003他）等の研究で触れられている。このうち、笑いが持つモダリティ調整機能という側面に触れたものに、桐田・遠藤（ibid.）、早川（ibid.）がある。桐田・遠藤（ibid.）は、飲食店における主人と客の会話を録画し、このうちの laugh-speak（笑いながら話す）行為に注目している。分析の結果、laugh-speak は形式的側面においては、言葉の「繰り返し」や「引用・再現」において生起しやすいことがわかり、さらに機能的側面においては、不本意、躊躇、緊張緩和など、発話内容に対する話者の態度や感情面に関わる修辞が推測された。ただし、laugh-speak の全てにこうした修辞機能を見いだせるわけではないと記されている。また、早川（ibid.）は女性の職場における会話データを笑いの機能という側面から分析し、笑いを「A類：話題に引き込むための仲間づくりの笑い」、「B類：強すぎる表現などを緩和し、バランスをとるための笑い」、「C類：ごまかしや戸惑いを覆い隠すための笑い」と名づけている。

これらの先行研究では、職場における対面会話という条件下でデータがとられており、日本語話者と異言語文化圏の話者の笑いの相違については明らかにされていない。それでは、職業的な場ではなく、話者どうしが対等の立場にある日常会話では、どのような笑いが起こるのだろうか。また、異なる文化背景を持つ話者どうしの会話では、笑いはどのような立ち現れ方をするのだろうか。さらに、先行研究では、修辞や緊張緩和と分析されているが、笑いはどのように表現形式や発話内容を調整していく、つまりどのようなモダリティと関わり、

どのような発話効果を意図して用いられるのだろうか。

以上のような点に注目し、本発表では、異文化コミュニケーションの対面会話に現れる笑いが、対人関係に関わる丁寧さのモダリティをどう調節するのかを考える。まず、笑いの分類枠組みを定め、次に日本人どうしの会話で起きた笑いが異言語文化圏の話者との異文化コミュニケーションの場面で起こるかどうかをみていく。

3 分析データについて

3・1 対面会話調査の概要

対面会話データは1990年秋に行った異文化コミュニケーション状況での対面会話調査データの一部を用いる。親疎条件を揃えるために初対面の話者どうしの会話とし、各組20分66組計22時間分の会話データを収録している。ここでは、そのうち日本人6名 {日本人女性 (JF) 3名, 日本人男性 (JM) 3名}, 中国人6名 {中国人女性 (CF) 3名, 中国人男性 (CM) 3名}, アメリカ人6名 {アメリカ人女性 (EF) 3名, アメリカ人男性 (EM) 3名} の日本語による33組の対面会話、会話開始後の5分間に現れる計1254の笑いを分析データとした。話者は学生で、年齢は20代が中心だが、アメリカ人には30代の話者が何人かいる。²⁾

なお、データで得られた笑いの音声的な特徴は次のように分類することができる。³⁾

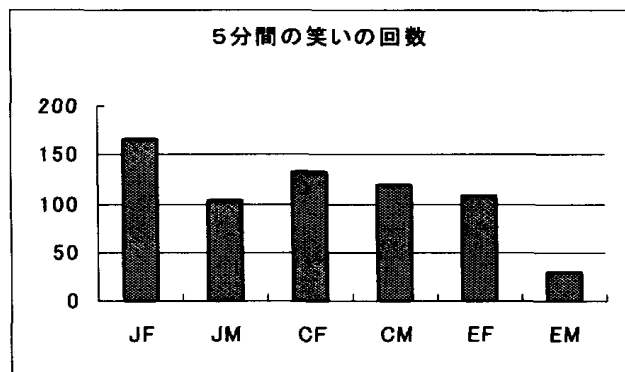
A: 言葉にかかる笑い……厳密には、笑いの音声が発話に挿入されたと考えることもできるが (Jefferson, 1985), ここでは単純に発話にかかる笑いと考えた。hahahhhh huhhhhh heheheh, hhhhhhh 等と記述した。

B: 音声のある笑い……笑いが独自の音声としてはっきり識別できるもの。①に付随する場合と、独自に現れる場合がある。また、強弱、出現する音声は多様である。hahahhhh huhhhhh heheheheh, hhhhhhhh 等と記述した。

C: 呼気音のみの笑い…… hhh と記述した。短く弱い笑いが多い。

3・2 笑いの分類と記述

図1：言語話者ごとの5分間に起こる笑いの回数



初対面の話者どうしの異文化コミュニケーション場面では笑いは何回ぐらい起こるのだろうか。話者ごとに5分間で起こる笑いの回数を比較した。日本人女性（JF3名）は166回、中国人女性（CF3名）は132回、中国人男性（CM3名）は118回、アメリカ人女性（EF3名）は108回、日本人男性（JM3名）は約103回であるが、アメリカ人男性（EM3名）は30回しか笑いが起こっていない。

日本人女性の笑いの回数の5分の1以下である。日本語のレベルや滞在期間、対話相手に関わらず、アメリカ人男性の5分間で起こる笑いは6回～4回と、他の話者と比べて極端に少なかった。ちなみに他の言語話者の5分間の会話中に起こる笑いの平均回数は、中国人女性（22回）、日本人女性（20,8回）、中国人男性（19,7回）、アメリカ人女性（18回）、日本人男性（17,3回）であった。

次に、笑いの種類、そして笑いのモダリティ調整を見るために、笑いを文脈によって「叙述のモダリティに関わる笑い」と「実行のモダリティに関わる笑い」に整理する（宮崎，2002他参照）。「叙述のモダリティ」は何事かを陳述する表現に関わる。「実行のモダリティ」は発話行為の遂行をめざす表現に関係するものである。⁴⁾ 笹川(2006)で扱った電話会話に現れた日本人どうしの笑いを参考にし、笑いの分類枠組みを考えた。

<モダリティの視点から見た笑い>

I 叙述モダリティに関わる笑い

相互作用のある笑い ア：おかしさ・嬉しさを現す笑い

イ：共感の表現 エ'：謙譲表現とその否定

単独で現れる笑い ウ：驚き・戸惑い エ"：「照れ」

II 実行モダリティに関わる笑い

相互作用のある笑い オ：優先応答体系にある発話行為の隣接対

カ：話題転換時に現れる間をとる笑い

単独で現れる笑い キ：非同意や悪いニュースを伝える

次に、日本人どうしの会話で見られた笑いが、中国人女性、中国人男性、アメリカ人女性、アメリカ人男性の発話で現れるかどうかを探っていく。

4. 異文化コミュニケーションで起こる笑いの種類

異文化コミュニケーションではどのような種類の笑いが起こるのかを、はじめに叙述のモダリティに関わる笑い、次に実行モダリティに関わる笑いの順で見えていくことにする。

4・1 叙述のモダリティに関わる笑い

この笑いは、「ア：おかしさ、嬉しさを表現する笑い」「イ：共感を表現したり、付加される笑い」「ウ：驚き等の感情表現に付加される笑い」「エ：話し手の評価を高める文脈に付加する笑い」の四つに大別される。

(1) 「アおかしさや嬉しさを表現する笑い」

「(A)おかしさの表現」や「(B)からかいー(C)からかいへの応答」が含まれる。

(A)おかしさを表現する笑い

ゴフマンのいう「感情のあふれだし」という言葉が当てはまる笑いである。この笑いは、相互作用を伴い、強く、長く続く傾向が見られる。中国人女性、中国人男性、アメリカ人女性、アメリカ人男性のどの会話でも観察された。

例1：中国人女性と日本人女性の会話 <データ19：CF2&JF4> (JF4の名乗りの場面)

JF4:あたし本田と言います	hhh	hhhh	似たような huhuhuhuhhhh	そう
CF2:	あっ本田 hhh	よく分かります	hhhhh	<u>huhhhhhh</u> モーター(・)バイク
JF4:hhh	モーターそう			

例2：中国人男性と日本人男性の会話 <データ43：CM2&JM2> (人数の多いゼミはじゃんけんで配属が決まるという話)

CM2:おおっというか一年の時に	体育と	やサッカー部とか何あれと一緒になんすよね
JM2:		
CM2:	<u>hhhh</u>	そういうことなんすか hhhhhhhhhhh
JM2:hhh	あっそう hhhhh	そうそうそうそうそう hhhhhhhhh

例 3 : アメリカ人女性と日本人男性の会話 <データ49: EF3&CM3> (EF3
が指導教官の曖昧表現を日本人もわからないと話す)

JM3: わからないですね全然 hhhhhh
EF3: ですから日本人の友達に聞いて、先生は何をおっしゃたんですか
JM3: hhhhhhhh
EF3: どういう意味ですか あー私たちもわかりませんよって言って hhhhhhhh

例 4 : アメリカ人男性と日本人男性の会話 <データ40: EM1 & JM1> (飛
行機に乗ったことのない JM1は EM1 と話す)

JM1: 飛行機どうですか、でも怖いじゃないすかなんか そうですか
EM1: んでもーあんまり怖くないだと思います
JM1: みえませんか、 ええ hhh
EM2: だからもし How do you say, 落ちたら うーんじゃあ How do you say(・)
JM1: //hhhhh// そうですか
EM2: 希望がない//hhhhh//そう大丈夫

(B)からかいの表現に付加される笑いー(C)からかいへの応答に付加される笑
い

普通なら、悪口になる事実の陳述表現が、笑いが付加されたため、親しさを
表す表現になる。

例 5 : 中国人女性と日本人女性の会話 <データ19: CF2&JF4> (JF4がフ
ランス語を学んだと話す)

CF2: あっ第二 おしゃれし//て hhhhhh//
JF4: で大学1年の時にフランス語をやったんですね 第二外国語 //hahahaha//hh

例 6 : 中国人男性と日本人女性の会話 <データ20: CM2&JF4> (JF4が
マンドリンを弾いていた時固い指になったと話す)

CM2:
JF4: 引退してしたらもう普通の柔らかい指になって普通の人の指になった
CM2: あってというか練習していませんね hahhhhhhhhhhhh
JF4: そうともいいます hahhh

アメリカ人女性、アメリカ人男性と日本人の会話には「からかいの笑い」の
例はなかった。また、後述する例14のアメリカ人男性は相手をからかうのでな
く、自分自身に向けた失礼な表現を笑いでカバーしている。相手と悪口関係
を取り結ぶことが親しさの表現になる文化もあれば、親しさをほめて表現する文

化もある。この笑いはこうした文脈と関わるので、言語文化差があることが予想される。

(2)「イ：共感を表現したり、付加される笑い」

「(D)共感を表現する笑い」が含まれる。共感を示す表現につく笑いは、どの言語話者にも見られた。この笑いは、おかしさを表現する笑いと比べて、弱く、軽い。今回は見られなかったが、日本人の電話会話には「諦めの笑い」がある。

例7：中国人女性と日本人女性 <データ19：CF2&JF4>（CF2は自分の年齢が高いので、JF4の学年を羨ましいと話す）

CF2: もう4年生うらやましい hahaha
JF4: あたしは……その4年生なんですね もう ha

例8：中国人男性と日本人男性 <データ48：JM3&CM3>（CM3が中国の時とは違う専門科目を勉強していると話す）

CM3: 1年の時は楽だったけど hhh 2年が専門ちょっと違うから向こうの専門は材料工学科で hhh
JM3:
CM3: うん hhh 全然違う hhh
JM3: あー全然違いますね hhh まったく違いますね hhhh

例9：アメリカ人女性と日本人女性 <データ21：EF2&JF4>（JF4がやっと就職先が決まったという話をする）

EF2:
JF4: 認めてもらったら、研究員にならせてもらえるかもしれないけれど、そしたら外国に行くかもしれませんね
EF2: いいですね hhh ほっとしましたか hhh
JF4: えー hhhh そうなったらいいですけどね hhhh ほっとしました hhh
EF2: それはよくわかります hhhh
JF4: わかりますか hhh

例10：アメリカ人男性と日本人男性 <データ50：EM3&JM3>（JM3が出身地の富山の話をする）

EM3: ああーそうでしょう
JM3: すごく自然が豊かなんですけど hhh 他に何も無いすよね hhhh
EM3: それでいいですよ十分ですよ hhh
JM3: ま自然はあるけど まあそれだけで十分なんですけどもね

(3)「ウ：感嘆等の感情表現に付加される笑い」

電話会話では「(E)驚き」や「(F)感嘆」の表現につく単独の笑いがあった

が、対面会話では、相互作用を伴うことが多い。次にあげるのは、(E)驚き・戸惑いの表現に付加される笑いである。この笑いは、中国人女性、中国人男性、アメリカ人女性、アメリカ人男性の事例に観察された。

例11：中国人女性と日本人女性の会話 <データ31：CF3&JF6>（会話の開始時に）

CF3: うんちょっと緊張します hhhhh カメラ3つもある
JF6: なんかすごい緊張しちゃいますよね hhhhh

例12：中国人男性と日本人女性の会話 <データ48：CM2&JF4>（会話の開始時に）

CM2: 初めまして ちょっと緊張してます hhh
JF4: どうも初めまして hhhh 私もすごい緊張してるんですけど hh

例13：アメリカ人女性と日本人女性 <データ9：EF1&JF2>（会話の開始時に）

EF1: こんにちは h//hh// えとお名前は ひろこさん//hhhhhh//
JF2: //こん//には hhh 名前は浜田ひろこです //はい hhhh//お名前は
EF1: えモーリです うん はー//hhh 三つ//camera なんで? hahahahhhh WouhhhhhOK
JF2: モーリさん あ //hhh へえー// えっねー hhh

例14：アメリカ人男性と日本人女性 <データ22：EM2&JF 4>（JF4は博士2年という EM に年齢の質問をする）

JF4: 年はいくつなんですか 結構ありますか//hhh// えーそうなんですか
EM2: えっとー結構ーありますね //hhh//3 4年 hhh
JF4: みえませんね、そんなに hhh //hhh/h//h //ahah//hhhh
EM2: はいはいはい 嘘ばかり h//hhhh// はげですよ hhhhh//hhh//

なお、「(F)感嘆」の表現につく笑いは日本人女性どうし、日本人女性、アメリカ人女性 EF の例で観察されたが、中国人男性、アメリカ人男性の表現には笑いは見られない。

{感嘆に笑いがつく例}

例15：日本人女性どうし<データ11：JF2&JF7>（JF7は今は高級住宅地である目白に住んでいることを話す）

JF2: ん
 JF7: えと一ちょっと前までは練馬にいたんですけど 今文京区の(・)目白の方において
 JF2: ええええすごいですねーそんな h//hhh //
 JF7: //hhh//

例16：日本人女性と日本人男性 <データ24：JF4&JM2> (JM2は横須賀から通っていると話す)

JM4: うちの遠くてねー 横須賀なんですけどね 横須賀っていうか久里浜なんです
 JF4: はい あっ横須賀なんですか あー
 JM2: ちょっと遠いんですけどね hhh ええなんとかっていう感じですけど
 JF4: 通ってるんですか あーすごいですね hhh

例17：アメリカ人女性と日本人女性 <データ9：EF1&JF2> (会話の開始時に)

EF1: すごい//hhhhhh// Wow
 JF2: 早稲田なんですけれども兄は //そう hhhh// そうなんです。それで・・・・

参照するために以下 {感嘆に笑いがつかない例} を示す。例18の中国人男性 (CM2), 例19のアメリカ人男性 (EM1), 例20のアメリカ人男性 (EM2) の感嘆の言葉には, いずれも笑いは添えられていない

例18：中国人男性と日本人女性 <データ20：JF4&CM2> (JF4はマンドリンのコンサート会場の話をする)

CM2: あっ文化会館でやったんですか あっすごいじゃないですか
 JF4: ああいうところを借り切ってやるんですよ hhhhhhh

例19：アメリカ人男性と日本人女性 <データ10：EM1&JF2> (JF2の趣味の話)

EM1: どの楽器? わーすごい
 JF2: 趣味は楽器を弾くことかしら あのーピアノとかバイオリンとか うーん uhuh

例20：アメリカ人男性と日本人女性 <データ22：EM2&JF4> (JF4の専門分野の話)

EM2: 専門は何ですか あほんと あーすごい
 JF4: 専門はあの社会学(・)なんです あのー社会福祉をやつてて すごいです? =hhh

(4)「エ：話し手の評価を高める文脈に付加する笑い」

話し手に肯定的な評価になる内容を話す時に付加される笑いである。相互作用を伴う場合と単独で現れる場合がある。「(G)謙譲表現に付加される笑いー(H) G (謙譲表現) を否定する表現に付加される笑い」は相互作用を伴うことが多い。(H)は否定という表現に付加するため、「実行モダリティ」の調整に関わると考えられる。中国人女性、中国人男性、アメリカ人女性、アメリカ人男性のデータに謙譲表現が使われ、笑いが添えられていた。応答にも笑いが伴うが、例22では、相手の日本人男性は笑いを返していない。

「(G)謙譲表現に付加される笑いー(H) G (謙譲表現) を否定する表現に付加される笑い」

例21：中国人女性と日本人女性の会話 <データ31:CF3&JF6> (CF3が自分は専門について知らないと謙遜する)

CF3: あの一情報工学科とかコンピュータのハードウェアとかソフトウェアとか(・)
JF6: 何を勉強してるんですか
CF3: 私もあまり(・)知らない//hhh//分野です hhh
JF6: //hhh//

例22：中国人男性と日本人男性の会話 <データ48:CM2&JF4> (CM2が課題は難しくないと謙遜する)

CM1: うん課題が出されて
JM1: ふうーん、どういようなことをやってるんですか、それで ふうん
CM1: 毎週毎週それを解いて それとメールで添付ファイル送るとそれだけです hhhh
JM1: ええ

例23：アメリカ人女性と日本人女性 <データ21:EF2&JF4> (EF2がいつかは就職できるだろうと謙遜する)

EF2: ですから帰ったらあの一そういういろいろインタビューを受けてま//hhh//何ヶ月たったらわかんないですけど
JF4: //hhh//
EF1: hhh あの一 hhh いつか就職できると思います hhhhh //hhhh//
JF4: hhhhh 大丈夫ですよ//hhhh//

例24：アメリカ人男性と日本人男性 <データ40:EM1 & JM1> (EM1はJM1のほめに対して謙遜する)

4・2 実行のモダリティに関わる笑い

(1)「オ：発話行為の遂行と、その応答に付加される笑い」

日本人の電話会話では(J)挨拶、(K)申し出、依頼、誘い、質問など(L)同意、受け入れ、(M)感謝の相互作用的な笑いが観察された。この初対面の話者どうし対面会話では、(J)挨拶、(K)質問、情報提示、(L)同意、受け入れ、(M)感謝の笑いが見られた。

(J)挨拶の表現に付加されたり、それを表現する笑い

例29：中国人女性と日本人女性 <データ19：JF4&CF2>

CF2: //はじめ//まして//hhhhh//ホーと申します はい
JF4: はじめまして//hhh// //hhhhh// ホーさん?

例30：中国人男性と日本人女性 <データ32：CM3 &JF6 >

JF6: こんにちは (・)はい あっえっがもうと申します がもうです
CM3: こんにちは hhh あのお名前は はい?

例31：アメリカ人女性と日本人女性 <データ33：EF3&JF6>

EF3: //hhhh// よろしくお願ひします
JF6: //hhhh//よろしくお願ひします

なお、次の事例は祝福という行為にあたり、日本人や中国人で笑いが添えられることが多いが、ここではアメリカ人女性、アメリカ人男性は笑いを添えていない。

例32：中国人男性と日本人女性 <データ8：CM1&JF2> (JF2が明日誕生日を迎えるので、CM1は祝福する)

JF2: へえーじゃ(・)何才でいらっしゃいますか あっそうなんですか あたしも明日
CM1: (・)22です はい
JF2:=22になります hhhh hahahahhhh ありがとうございます hhhh
CM1: 明日 hhh おめでとうございます hhh

例33：アメリカ人女性と日本人女性 <データ21：EF2&JF4> (EF2は JF4の就職決定を祝福)

EF2: あーで就職は? あーおめでとうございます
JF4: あっ決まりました hhhh ありがとうございます hhhhh

例34：アメリカ人男性と日本人女性 <データ22：JF4&EM2> (EM2は JF4の就職決定を祝福)

JF4: はい あの一応就職というか今度来年から働くところが決まって
 EM2: あのー卒業したら どんな予定ありますか？
 JF4: はい 決まりました？ ありがとうございます hhhh
 EM2: あっほんと もう決まりました？ おめでとうございます

(K)質問, 客観的な情報提示(申し出, 依頼, 誘い)に付加される笑い

まず相手に付帯する情報を聞きだす「質問」に付加する笑いは中国人女性と中国人男性, アメリカ人男性の会話に見られたが, アメリカ人女性の会話には見られなかった。

例35：中国人女性と日本人女性 <データ31：JF6&CF3> (CF3は JF6に上海について尋ねる)

CF3: 中国の上海 知ってますか hhh
 JF6: どの辺？中国の 上海 知らない hhh あの大きい町しか知らないんですけど
 CF3: そうですか hhhh

例36：中国人男性と日本人女性 <データ32：CM3&JF6> (CM2は JF6に現役で入学か尋ねる)

JF6: 私はまだ19なんですけどお hhhh 現役で hhh
 CM3: hhh あーじゃああの現役でというか hhh

例37：アメリカ人男性と日本人男性 <データ40：JM1&EM1> (EM1は JM1の論文が進んでいるか, 尋ねる)

EM1: あ僕は er ビジネスプロセス管理を
 JM1: えっ経営ってどういうことやるんですか？ なん何とかりサーチとか
 EM1: =研究しています So 今は卒業論文を書いています？ So(・)じゃあ進んでます？ hhhh
 JM1: ええ
 EM1: hhh ああ
 JM1: いえ僕は進んでないですけども hhhh

ただし, 次のアメリカ人女性の, 意味のわからない修復要求の質問には笑いが添えられている。

例38：アメリカ人女性と日本人女性 <データ33：EF3&JF6> (EF3は商学部の意味を尋ねる)

EF3: 専攻は？ しょう？ しょう ahahahhhh 商学部って何です？
 JF6: えっと商学部で 商学部 産業経営学科
 EF3: あっそうですか
 JF6: ビジネス

(L)同意、承諾に付加されたり、それを表現する笑い

賛同を示すという意味では、自分の感想を付け加え表現する「共感」の笑い
 と似ているが、この笑いでは話者は同意のみを示す。中国人女性、中国人男性、
 アメリカ人女性、アメリカ人男性が用いている。

例39：中国人女性と日本人女性 <データ7：JF2&CF1>（JF2とCF1は世
 田谷線の話をする）

CF1: ねー //ねー//hhhh
 JF2: あっほんとに可愛い電車ですね 小さくてね//hhh// 大好きなんですよ、私も。

例40：中国人男性と日本人男性 <データ48：CM3&JM3>（CM3はロボコ
 ンのロボットを作った話をする）

JM3: hhhh 大変ですよ でも面白いじゃないですか hhhh
 CM3: はい、一人1台作るんだよね それけっこう大変なんだ うん
 JM3: なんかもう小学校の夏休みの工作 hhh みたいな感じで hhhh hhhhh
 CM3: そうですね hh あっそうそういう感じ hhhh

例41：アメリカ人女性と日本人女性 <データ33：EF3&JF6>（EF6はタク
 シーの運転手が間違える話をする）

EF3: タクシーの運転(・)者とか 間違われみたいです 御茶ノ水女子大学だと女子大学お願いしますって
 JF6:
 EF3: =言う ええええという話がありますけど hhh ええ、ええ
 JF6: 御茶ノ水の方に行こうとする それは困ります hhhhhh

例42：アメリカ人男性と日本人男性 <データ50：JM3&EM3>（JM3はE
 M3の言葉の話をする）

EM3: えっと3年間ですか はい
 JM3: でもう日本に来て、どれくらいたれるんですか あー3年ですか ああー
 EM3: 京都は1年間で 関東のほうは2年間です
 JM3: 京都に1年間 あそうですか、
 EM3: はいそー hhhh
 JM3: あなんか言葉が落ち着いてますね hhhh

観察データでは、上記の発話行為が遂行される時、まず発話者側の発話に笑

いが付加され、次いで隣接ペアとして現れる受け手側の「同意、承諾」を意味する表現として、笑いが用いられたり、同意等の表現に笑いが付加されている。笑いが言語表現を伴わず、単独で応答としての機能を果たしていることは、G. Jefferson (ibid.) が指摘している。

(M) 感謝の表現に付加される笑い

日本語話者のデータでは感謝の表現に添えられる笑いが現れる（例26.27.28の JF 参照）が、今回観察した異言語文化圏に属する話者には感謝の表現に付加する笑いは見られなかった。

例43：中国人女性と日本人女性 <データ 7：JF2&CF1>

CF1: どうもありがとう
JF2: あっきれいな名前ですね hhh

日本人どうしの感謝に対する応答では、感謝に対して、自分は感謝されるほどのことをしていないということが表現され、笑いが付加されると考えられる。

(2) 「カ：話題転換時に現れる間をとる笑い」

この笑いは会話が続かなくなった時に話者どうしが間をとる場面で見られる。きまづい空間を回避するための方策と考えられる。中国人女性、中国人男性、アメリカ人女性、アメリカ人男性のデータに見られた。

例44：中国人女性と日本人女性 <データ 19：JF4&CF2>

CF2: 遊んで hhh //uhuhh //誤解しましたね 勉強すればよかったのに hh
JF4: 遊んでた//huhuhh// うん いえいえ hhhh けどよかったじゃ
CF2: huh(・)あーあー // hhhhh//
JF4: ないですかねーここ決まって うーん//uhuhu// (・)そうですか(・)

例45：中国人男性と日本人女性 <データ 32：CM 3 &JF6>

JF6: もう何回か(・) 今日 1 回目？ 私も今日が初めてで hhh
CM3: あ今日 1 回目です はい あっそうですか hhh (・)えーと(・)今

例46：アメリカ人女性と日本人女性 <データ 9：EF1&JF2>

EF1: わあー楽しそうね//hhh// //hhh//うーん夏休みに？ うーん huh あ huh
JF2: //すぐ//楽しかったよおもしろ//かった// 夏休みに(・)hhh
EF1: huhh
JF2: hhh うーん(・)

例47：アメリカ人男性と日本人女性 <データ10：JF2&EM1>

EM1: そう I think 僕のクラスメイトもよく分かんなかった hhhh (・)そう hh(・)じゃあ東京で生まれたんですか？
JF2: ahahahahhh

(3)「キ：悪い情報や会話の流れを遮る言語表現につく笑い」

「N 自分に都合の悪い表現や言い訳」「O 謝り」「P 断り」「(Q 悪いニュースの伝達)」

(N)言い訳や自分に都合の悪い表現に付加される笑い

謝りや言い訳は、話し手側に非がある場合の発話表現である。なお、対面会話データでは自分の否定的な評価につながる情報に笑いが添えられていた。これがユーモア表現になる場合は、同調作用を伴う状況になる。

例48：中国人女性と日本人女性 <データ19：JF4&CF2> (CF2は就職の時に年齢で困ると話す)

CF2: 卒業するともうけっこうの年齢いってますから hhh その時もっとつらいと思いますよ hhh
JF4: あー
CF2: 今だい まだ在学中は感じませんしね 年齢とか 就職する場合は hh もう
JF4: あーそうです hhh うん あー あー hahah
CF2: 同じような hh 新入社員はみんな若い h//hhh// そんな時は困るよね
JF4: うん //あー//hhh hahahhhh

例49：中国人男性と日本人女性 <データ32：CM3&JF6> (CM3はロボコンの話をする)

JF6: あっ はいはい テレビで
CM3: で今年の前期あのロボ、コンあったんでしょ あの あの国際大会と前の一応学内コンテストが
JF6: hhh//1回戦//hhh
CM3: あってそれで1回戦見事落ちました hhhh //hhh//
JF6: けっこう多くの人が出るんですか
CM3: あー参加者は108人ぐらいで

例50：アメリカ人女性と日本人女性 <データ21：EF2&JF4> (EF2は卒業後が不安だと話す)

EF2: 来年の3月に卒業しますから それからアメリカに帰るつもりなんです けど今あのアメリカ
JF4: あっ あっ帰るんですか
EF2: へに帰ったらどうするか全然わかりません 緊張してるうん//hhh//やっぱり
JF4: あまだ //hhh//

例51：アメリカ人男性と日本人男性 <データ50：JM3&EM3>（EM3は勉強が大変だと話す）

EM3: あの一言語学です
 JM3: 向こう東京大学の方では何を勉強していらっしゃるんですか あっ言語学ですか
 EM3: //hhh//難しいですね。だからうーん苦しんでる//hh//
 JM3: = ああー難しい hhh 言語学ですか h//hhh// //hhh//ああそうですか hhh

（O）謝りの表現に付加される笑い

待ち合わせの時間に遅れたような場面でよく見られる笑いであるが、対面会話のデータには、こうした場面はなかった。

（P）非同意（断り）を表す表現に付加されたり、それを表現する笑い

非同意の笑いという意味では、断りの笑いと同質である。ただし、断りの笑いは同調作用を示す可能性があるが、この笑いは単独で現れることもある。中国人女性、中国人男性、アメリカ人女性、アメリカ人男性の会話に見られた。

例52：中国人女性と日本人男性 <データ42：JM2&CF2>（CF2は専攻した経営工学が役に立つかかわらないと話す）

CF2: よく分からなくて//hhhh//志望してしまった//hhhhh//
 JM2: //hhhh// //hhh//いやーでも大体みんなそうですね。入ってみて
 CF2: でも機械とか聞いて 大体わかるでしょう hhh
 JM2: = なんか実際やってみてああこんなもんなのかっていう ええ
 CF2: いや機械や、とか、電気や、聞いてあ実際のものが
 JM2: ああ、あっすごいですねえ ええ あっあなるほどね。
 CF2: ねいろいろ hhhh
 JM2: 実際色々ありますからね hh

例53：中国人男性と日本人女性 <データ8：CM1&JF2>（JF2が外国行きを勧める）

JF2: (外国) 行かれたことありますか あそうですか
 CM1: いや日本しか ahahhhh はい
 JF2: すごい面白いから行ってみてください hhh hhh //uhuhu//hhh ふーん(・)
 CM1: そうですね 金ためて//hhhh//

例54：アメリカ人女性と日本人女性 <データ9：EF1&JF2>（ブライアンという兄の知人について JF2が話す）

表 1：「言語話者ごとの叙述のモダリティに関わる笑いの現われ方」

叙述のモダリティに関わる笑い	A おかしさ	B からかい	D 共感	E 驚き等	F 感嘆	G 謙譲表現	I 照れ
日本人女性 (JF)	○	○	○	○	○	○	○
日本人男性 (JM)	○	○	○	○	○	○	○
中国人女性 (CF)	○	○	○	○		○	○
中国人男性 (CM)	○	○	○	○		○	○
アメリカ人女性 (EF)	○		○	○	○	○	○
アメリカ人男性 (EM)	○		○	○		○	○

表 2：「言語話者ごとの実行モダリティに関わる笑いの現われ方」

実行のモダリティに関わる笑い	J 挨拶	J' 祝福	K 質問	L 同意	M 感謝	(カ) 間をとる	N 悪い情報	0 非同意
日本人女性 (JF)	○	○	○	○	○	○	○	○
日本人男性 (JM)	○	○	○	○	○	○	○	○
中国人女性 (CF)	○	○	○	○		○	○	○
中国人男性 (CM)	○	○	○	○		○	○	○
アメリカ人女性 (EF)	○			○		○	○	○
アメリカ人男性 (EM)	○		○	○		○	○	○

笑いが相互作用を伴うか、単独で現れるかという点から整理をすると、笑いが相互作用を伴うかどうかは、笑いが付加するのが、叙述モダリティを示す表現か、実行モダリティを示す表現かというよりも、先行する発話の内容による場合が多い。すなわち、挨拶や共感を示すように、お互いに好感を伝えあう笑いでは相互作用が起こりやすく、反対に不幸な出来事を話す時には、受け手側は笑いを添えないであろう。また、話し手側の謝りの発話に笑いが付加されていても、受け手側がそれを受け入れるときは笑いが付加され、拒否を示す場合は笑いが添えられないことも考えられる。そして、非同意であってもデータでは笑いが添えられることが多い。さらに、謝りや感謝は話し手の真意が問題になるが、言語文化圏によっては笑いが添えられることで、真意を弱めると解釈される場合もある。このように、笑いは多様な状況で用いられ、いずれも言語情報以上の話者の配慮を強調したり、伝えたり機能を担うことがわかる。

それでは私たちは、なぜおかしくない時でも、コミュニケーションにおいて笑いを添えるのだろうか。それは、コミュニケーションにおいて、私たちが印象操作を行うという側面から考えられる。相手への配慮を示すことで、コミュニケーションをより円滑に進められ、心地よい対人関係を取り結ぶことができるからである。なお、対面会話の場合は、電話会話では単独で現れた笑い、例えば「照れ」「驚き」「自分のマイナスの情報提示」「非同意」の笑いが相互作用を伴うことがあった。これは対面会話の場合、ほほえみに見られるように、緊張緩和のために笑いをを用いる効果が高くなり、したがって話者がより強く笑いを意識し、笑いを多用するためではないだろうか。

さらに、印象操作のための笑いの機能を探るために、笑いをおかしさが溢れ出る自己開示の笑い、それ以外の笑い、すなわち何らかの印象操作をもくろむ自己呈示の笑いに分ける。ここでは、後者の「おかしさ以外のモダリティ表現に関わる自己呈示の笑い」を観察する。自己呈示の笑いを、E. Goffman のフェイス（自己イメージ）とその印象操作である儀礼行為の概念に沿って3つに分けた。それぞれの笑いが電話会話の中でどのように言語表現と関連し、対人関係に関わるモダリティを調節するかについて整理したが、笑いの機能は、笑いが叙述モダリティに関わるのか、実行モダリティに関わるのかという側面より、どのような表現内容と関自己のフェイスを保持する「品行」に関わる笑いわっているかという、発話行為や文脈の内容的な側面からより直接的な影響を受けられると思われる。そして、対話相手に対する印象操作の装置として、次のようにモダリティを調節すると考えられる。

I 相手のフェイスを評価する「呈示儀礼」に関わる笑い

挨拶での喜びの笑い、同意を示す笑い、感謝の笑いなどが含まれる。この笑いは共感を高めあい、話者が積極的に対話者に関わりたいというモダリティを強調する。からかい、感嘆、祝福、感謝の笑いは異言語文化圏の話者には観察されない。

表 3：「言語話者ごとの相手のフェイスを評価する呈示儀礼に関わる笑い」

笑いの種類 話者	B からかい	D 共感	F 感嘆	J 挨拶	J' 祝福	L 同意	M 感謝
日本人女性 (JF)	○	○	○	○	○	○	○
日本人男性 (JM)	○	○	○	○	○	○	○
中国人女性 (CF)	○	○		○	○	○	
中国人男性 (CM)	○	○		○	○	○	
アメリカ人女性 (EF)		○	○	○		○	
アメリカ人男性 (EM)		○		○		○	

Ⅱ 相手のフェイスを脅かさないことを示す「回避儀礼」に関わる笑い

非同意、質問、話題転換などの笑い。この笑いは好ましくない会話状況を回避するためのものである。話者は笑いによって、自分の消極的なモダリティを緩和し、対話者の評価が好意的な方向に向かうよう印象操作を行う。この笑いもほぼ、中国人、日本人、アメリカ人のデータに共通に見られた笑いである。

表 4：「言語話者ごとの相手のフェイスを脅かさないことを示す回避儀礼に関わる笑い」

笑いの種類 話者	K 質問	(カ) 間をとる	N 悪い情報	0 非同意
日本人女性 (JF)	○	○	○	○
日本人男性 (JM)	○	○	○	○
中国人女性 (CF)	○	○	○	○
中国人男性 (CM)	○	○	○	○
アメリカ人女性 (EF)		○	○	○
アメリカ人男性 (EM)	○	○	○	○

Ⅲ 自己のフェイスを保持する「品行」に関わる笑い…二つのタイプの笑いが見られた。

- ① 謙遜表現や失策に対する謝りなどの自分に低い評価を与えるような表現に添えられ、話し手自身のフェイスを保護する。この笑いは話者の消極的なモダリティを緩和し、対話者の評価が好意的な方向に向かうよう印象操作を行う。

- ② 照れ笑いなど自分に高い評価を与えるような表現につき、自嘲のように自ら自分のフェイスを下げることで、フェイスを調節する。この笑いは話者の高い評価と結びつくモダリティを緩和し、対話者の評価が好意的な方向に向かうよう印象操作を行う。

品行の笑いは、日本人話者ほど数は多くないが、データでは中国人、アメリカ人共に用いられていた。

表5：「言語話者ごとの自己のフェイスを保持する品行に関わる笑い」

笑いの種類 話者	E 驚き等	G 謙譲表現	I 照れ
日本人女性 (JF)	○	○	○
日本人男性 (JM)	○	○	○
中国人女性 (CF)	○	○	○
中国人男性 (CM)	○	○	○
アメリカ人女性 (EF)	○	○	○
アメリカ人男性 (EM)	○	○	○

なお、笑いは言語表現と重なって起こる場合と、言語表現が伴わず、話者の笑いだけが観察される場合があった。モダリティとの関連から考えると、前者は主に言語表現の担うモダリティを調整し、後者は笑い自体がモダリティの生成に関わると考えられる。笑いは多様なモダリティ調節機能を担うことがわかる。

今回の会話データでは、どの言語話者も印象操作のために笑いをいていたが、この印象操作という意識は発話行為における発語媒介行為と重なる。モダリティを話者の心的態度を表わすと考ええると、笑いはまさしく言語情報に付随し、あるいは単独で話者の心的態度を表現するものであり、また同時にそれが対話相手への印象操作を目的として行う行為であれば、発語媒介行為ととらえることができる。笑い研究は、モダリティの対人関係調節の機能研究と、語用論における発語媒介行為研究との接点になるが、こうした従来の理論を越境する事象についての考察は将来の課題としたい。

今後は分析データを増やし、言語文化圏の話者ではどのような笑いの型がど

のぐらい使われるのか、量的な側面も併せて探っていきたいと思う。また、この会話調査の参加者は日本に1年以上滞在している中国人、アメリカ人である。日本文化の影響を受けない話者の笑いをとることも必要であろう。

注

- 1) 本稿は2006年に行われた北京大学日本語・日本文化国際シンポジウムでの発表原稿を基に作成したものである。
- 2) 引用した会話のデータ番号と話者は次の通りである。
 - ①日本人女性どうし データ11：JF2&JF7 データ23：JF4&JF8 データ35：JF6&JF9
 - ②日本人男性どうし データ41：JM1&JM4 データ46：JM2&JM4 データ51：JM3&JM4
 - ③日本人女性と日本人男性 データ12：JF2&JM1 データ24：JF4&JM2 データ36：JF6&JM3
 - ④中国人女性と日本人女性 データ7：JF2&CF1 データ19：JF4&CF2 データ31：JF6&CF3
 - ⑤中国人女性と日本人男性 データ37：JM1&CF1 データ42：JM2&CF2 データ47：JM3&CF3
 - ⑥中国人男性と日本人女性 データ8：JF2&CM1 データ20：JF4&CM2 データ32：JF6&CM3
 - ⑦中国人男性と日本人男性 データ38：JM1&CM1 データ43：JM2&CM2 データ48：JM3&CM3
 - ⑧アメリカ人女性と日本人女性 データ9：JF2&EF1 データ21：JF4&EF2 データ33：JF6&EF3
 - ⑨アメリカ人女性と日本人男性 データ39：JM1&EF1 データ44：JM2&EF2 データ49：JM3&EF3
 - ⑩アメリカ人男性と日本人女性 データ10：JF2&EM1 データ22：JF4&EM2 データ34：JF6&EM3
 - ⑪アメリカ人男性と日本人男性 データ40：JM1&EM1 データ45：JM2&EM2 データ50：JM3&EM3
- 3) 会話の記述方法について説明する。笑い以外の会話のスク립トで使用した記号は次の通りである。(・)会話中に現れる比較的長いポーズ // 発話や笑いの重なり = しまった発話(途切れなく続く発話)? 質問などの上昇イントネーション
- 4) 間接発話行為など陳述することによって、何らかの発話行為の遂行をめざす発話もあるが、その問題には触れない。また、笑いには話し手と聞き手の相互作用を伴う笑

いと、話し手だけで完結する笑いがある。前者は、対話者の一方が笑うと、もう一方の対話者も笑う「同調作用」のある笑いである。後者は一方の発話者の笑いが単独で起こり、それに対する受け手の笑いが起こらず、軽く短い笑いが多い。

<引用文献>

- Goffman, E (1961) *Encounters: Two Studies in the Sociology of Interaction*. The Bobbs-Merrill Company. 佐藤毅, 折橋徹彦訳(1985)『出会い』誠信書房
- Goffman, E. (1967) *Interactional Ritual: Essays on Face to Face Behavior*. A Doubleday Anchor Original.
- 橋元良明 (1992)「笑いのコミュニケーション」『言語』Vol.23, 大修館書店, Pp.42-48
- Jefferson, G (1985) "An Exercise in the Transcription and Analysis of Laughter" In *Hand Book of Discourse Analysis Vol.3*. Academic Press
- Jefferson, G, Sacks, H., & Shegloff, E. A., (1987) "Notes on Laughter in the Pursuit of Intimacy". In Button, G. & Lee, E. (eds.) *Talk and Social Organization. Multilingual Matters*.
- 早川治子 (2000)「相互行為としての『笑い』」『文学部紀要第14-1号』文教大学文学部, Pp.23-43
- 早川治子 (2001)「笑いの分析に基づく数量的研究」『文学部紀要第14-2号』文教大学文学部, Pp.1-24
- 木村洋二 (1983)『笑いの社会学』世界思想社
- 桐田隆博・遠藤光男 (2003)「面接場面の笑い：笑いながら話す現象 (laugh-speak) とその機能」『電子情報通信学会技術研究報告』, Pp.13-18
- 益岡隆志 (1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 宮崎和人他 (2002)『モダリティ』くろしお出版
- 水川喜文 (1993)「自然言語におけるトピック転換と笑い」『ソシオロギス No.17』Pp.79-91.
- 森山卓郎・仁田義雄・工藤浩『モダリティ』岩波書店
- 谷泰 (1987)「会話の中の笑い」谷編『社会的相互行為の研究』京都大学人文科学研究所
- 田窪行則 (1987)「統語情報と文脈情報」『日本語学 6 巻 5 号』, Pp.37-48
- 笹川洋子 (1994)「発語媒介行為の再考」『マス・コミュニケーション研究44号』Pp.58-71
- 笹川洋子 (1998)「儀礼行為としての笑い」『親和國分32号』Pp.84-109
- 笹川洋子 (2006)「電話会話における笑いのモダリティ調節機能について」ロンドン大学国際シンポジウム発表資料
- Scollon, R. & S. Scollon (1981) 'Narrative, Literacy and Face in Interethnic Communication' ABLEX.